

小域フォーラム事例 1

地域福祉フォーラムによる住民同士の支え合いサービスの創設 ～茂原市北部地区社協の取り組み～

基本データ

実施主体	茂原市北部地区社会福祉協議会（助成期間：平成22年度～24年度）
地域の現状 (市内地区社協数 13)	JR 茂原駅北側の住宅地、商店街のある市の中心地にむかしながらの伝統的な地域に暮す旧住民と新興住宅街の新住民とが混在している地域。 人口約 7,500 人、約 3,000 世帯、高齢化率は 27.6%。
参加した人	自治会、民生委員・児童委員、長寿会、小中学校、PTA、ボランティア、保護司、更生保護女性会、学識経験者等から選出された委員 30 名
話し合った内容	地域の困り事、生活課題、住民参加型の有償在宅福祉サービス
事業概要	ふれあいサロン活動、世代間交流、敬老行事、友愛訪問

1 地域福祉フォーラムに取り組んだきっかけ

地区社協のメンバー内で、地域の防犯・防災、少子高齢化、孤独死などの様々な課題に対し、自分たちの住む地域をより良くしていくために、多くの住民が集まれる場をつくり、意見を出し合おうという共通認識を持ったことがきっかけとなりました。

2 活動の内容

1年目 (22年度)	地区内における生活課題やニーズの掘り起こしのため、アンケート調査を実施しました。調査の実施にあたっては、効果的に実施するための質問内容をメンバーで何度も話し合い、サロンや地区内自治会などで地区社協委員が積極的に呼びかけを行い、幅広い世代の 466 人からの回答を得ることができました。
2年目 (23年度)	アンケート調査の結果をもとに今後の具体的な取り組みについての話し合いを中心に行いました。調査の結果、日々の暮らしの中で、草刈りや窓の掃除など、ちょっとした困りごとの手助けを望む声が多かったため、住民参加の有償在宅福祉サービスに取り組むことが決まりました。
3年目 (24年度)	サービスに対する住民ニーズの再確認のための調査、自治会役員との協議、先進地区の視察、在宅福祉サービスの実施要綱の策定等によって事業を推進するための体制の整備を行いました。
25年度 以降～ 現在	4年目にあたる平成25年度から、地区内萩原町自治会(人口1,100人、400世帯、高齢化率31.2%)の協力を得て、「萩の里たすけあいサービス」の開始に至りました。(平成27年6月30日現在：協力会員21名・利用会員8名・賛助会員3名)北部地区社協では、助成期間だけの活動に留まらず、現在も地域を住みやすくするための話し合いを継続して行っています。

3 地域福祉フォーラムの成果

北部地区社協は、地域福祉フォーラムは話し合いをするだけでなく、協議する中で明らかになった課題やニーズに対応していくことが重要であると考えています。そして、地区の人たちの困りごとの実態が明らかになるにつれて、助け合いサービスに結びついたことが大きな成果となりました。

4 課題や今後の展開

平成25年度から開始した萩の里たすけあいサービスの利用実績は、25年度は2件、26年度は9件でした。協力会員・利用会員については、アンケート調査の段階では相当数が見込まれましたが、実施に際しては、会員数が思うように伸びず、何回か会員の再募集をせざるを得なかったため、高齢者宅を地区担当民生委員が戸別訪問を行う等して周知に努めました。た



地域福祉フォーラムによる話し合いの様子

だし、利用会員数は少なくとも、助け合いのサービスがあることに対する安心感があることについては、大変意義のあることであり、今後会員数も増えていくことと考えています。

今後の推移を見て、他に賛同をいただいている自治会での助け合いの仕組みづくりへ取り組むことを目標としています。



萩の里たすけあいサービスによる

網戸清掃の様子

5 考察

北部地区社協は、地域福祉フォーラム事業に申請・採択されたことを契機に、地域の困り事や生活課題について話し合いを始めました。そしてニーズ把握のためアンケート調査や聞き取りを複数回実施し、調査結果について地域福祉フォーラムの中で話し合いを重ねてきました。その話し合いの成果の一つとして、何もサービスが無かった状態から、平成25年度に住民参加型の有償在宅福祉サービスを立ち上げるまでに至りました。地域において調査・話し合いを継続するだけでなく、地域の支え合い・助け合いの具体的な仕組みづくりまで実現した取り組みは特筆すべき点であると考えます。

【市町村社協の役割】

茂原市社協は、地区社協が地域福祉フォーラムを申請する前段として、「地区社協が中心となって、地域にある様々な団体の方々に集まっていただき、それぞれの立場から地域をよりよくするための話し合いをしましょう。」と投げかけをしてきました。地区社協の役員に理解してもらうため、どのような流れでやってみるか、地域の特性（人間関係や他団体との関係性）を考慮しつつ打ち合わせや説明会を重ね、地区社協が地域福祉フォーラムを申請する際の事務手続きの支援を中心に行いました。